

厚生労働科学研究費補助金（政策科学総合研究事業（統計情報総合研究事業））
分担研究報告書

患者調査に関する文献レビュー
-医中誌Web/Ovid-MEDLINEの情報より-

研究分担者 辻 雅善 近畿大学九州短期大学生生活福祉情報科・准教授
研究分担者 西大 明美 国立保健医療科学院 研究情報支援研究センター・研究員
研究代表者 星 佳芳 国立保健医療科学院 研究情報支援研究センター・センター長

研究要旨：

患者調査の過程において様々な課題があると考えられる。そこで、まず患者調査に関する文献レビューを行うことで先行研究内容を明らかにし、課題の抽出および課題に対する現状を把握することを目的とした。患者調査に関する文献を①医中誌 Web、②厚生労働科学研究成果データベース、③Ovid-MEDLINEを用いて抽出した。採択基準としては、患者調査の効率化について検討した論文・報告書とした。抽出された文献から表題と要旨等を確認した後にフルテキスト・報告書全文を確認した。患者調査の効率化について検討した論文・報告書は認められなかったが、患者調査の課題を指摘したものは認められた。本研究課題における患者調査の効率化の研究は新規性の高い研究であるといえる。

A. 研究目的

患者調査は、病院及び診療所を利用する患者について、その傷病状況等を明らかにし、医療行政の基礎資料を得ることを目的としており、3年に1度実施される基幹統計調査である。患者調査では、紙による調査票の提出に加えてオンライン調査システムを利用した電子調査票による提出を選択できることで、報告者負担の軽減が図られている。しかし、医療施設での調査票記入と、調査結果の集計作業の負担は依然として大きい。加えて、調査結果の、早期公表につながる効率化を検討することが求められており、特に主傷病のコーディング（ICD-10に準じる）等の集計における効率化を図ることが必要である。

患者調査の調査票の記入・作成・確認作業・コーディング・傷病名の分類・集計の過程等において効率的に行うための課題があると考えられる。そこで、患者調査に関する文献レビューを行うことで先行研究の中で患者調査を効率的に行うための提案をした研究があるか確認することを目的とした。また、文献のスクリーニングの途上で、目的とするテーマを扱っていないが、患者調査についての研究を行った論文があれば、その内容を確認する。

B. 研究方法

患者調査に関する文献を下記の2つのデータベースから抽出した。

- ①医中誌 Web
- ②Ovid-MEDLINE

<検索語等>

- ・医中誌Web：
（“患者調査(厚生労働省)”/TH or 患者調査/AL）
- ・Ovid-MEDLINE

Database:Ovid MEDLINE(R) ALL

#	Query
1	"Patient Survey".ab,ti.
2	"Japan*".mp.
3	1 and 2

<文献の採択基準>

患者調査の効率化について検討した研究

<スクリーニング方法>

タイトルと抄録のみで一次スクリーニングを独立した2名で行う。採否について意見が割れた文献は、全てフルテキストを取り寄せる。二次スクリーニングとして、フルテキストを確認し採否を決定する。フルテキストを確認し、不採用になったもので下記のテーマに関する論文は、その内容を確認した。

- a. 患者調査のデータを用いて分析を行ったもの
- b. 患者調査の手法について検討したもの

(倫理面での配慮)

本分担研究は該当せず。

C. 研究結果

令和3年度4年度を通して、文献検索の結果、医中誌 Web より 410 件の文献が抽出された。令和

3年度において、タイトルと抄録による一次スクリーニングを行った結果、382件が除外され28件抽出された。令和4年度において、一次スクリーニングで選定された28件のフルテキストを確認した結果、患者調査の効率化を検討した研究は認められなかったが、患者調査の手法等の課題に関する文献は8件であった。その内容を補表に掲載した。

Ovid-MEDLINEより63件の文献が抽出されたが、患者調査の効率化に関する検討を行った研究は認められなかった。

D. 考察

二次スクリーニングの結果より、患者調査の効率化を検討した研究は認められなかったが、患者調査の手法等の課題に対して用いた研究が8件認められた。課題の内容として、患者調査の解析方法の見直しや妥当性等の検討が必要である、薬剤投与期間や平均診療間隔、受け入れ条件、患者の医療機関受診のための移動距離等の妥当性を検証が必要である、精神病床独自の基準病床数の算定式が必要である、介護施設等における排泄の世話に関する必要度を把握することが必要であるといった指摘があった。そのため、患者調査の効率化における本研究の重要度は高いと考える。

E. 結論

患者調査に関して文献レビューを行ったところ、患者調査の効率化について検討した論文・報告書は認められなかった。しかしながら、患者調査に対する課題に関する文献は複数件で指摘されていた。患者調査の効率化に関して検討した論文・報告書が先行研究に認められなかったことから、本研究課題は、新規性の高い研究となると予想された。

F. 健康危険情報 なし

G. 研究発表

1. 論文発表 なし
2. 学会発表

(1) Keika Hoshi, Akihiro Toyota, Masayuki Tatemichi, Yoko Sato, Eizen Kimura, Masayoshi Tsuji, Hiroshi Mizushima, Hiroshi Yamakami, Tomoko Tashiro, Satoshi Ueno, Akemi Nishio. Future application of ICD-11 codes on the diagnostic names of sickness or injury in nationwide patient surveys in Japan. WHO - FAMILY OF INTERNATIONAL CLASSIFICATIONS NETWORK ANNUAL MEETING. Oct 2022

(2) 星佳芳, 豊田章宏, 水島洋, 木村映善, 佐藤洋子, 辻雅善, 小林健一, 上野悟, 西大明

美, 高田春樹. 患者調査の効率的な実施手法の確立に資する研究. 第81回日本公衆衛生学会総会. 2022年10月

知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得 なし
2. 実用新案登録 なし
3. その他 なし

補表. 医中誌 Web より抽出された文献の内容 (二次スクリーニング結果)

	医中誌文献 番号	文献タイト ル	著者	書誌	内容
1	2021210710	医療施設の 曜日別診療 状況と患者 調査の総患 者数の推計 方法	三重野 牧子 (自治医科大 学 情報セン ター医学情報 学), 橋本 修 二, 川戸 美 由紀, 山田 宏哉, 久保 慎一郎, 野田 龍也, 今村 知明, 谷原 真一, 村上 義孝	厚生の指標(0452- 6104)68 巻 1 号 Page29-33(2021. 01)	患者調査の総患者数の推計方 法について検討したところ、 推計方法の調整係数として は、代替値への変更が支持さ れず、また、歯科疾患の推計 に課題があるものの、現行値 が比較的適切である。
2	2019262356	疾病統計の 妥当性評価 について	谷原 真一(バ イオメディカ ルサイエンス 研究会)	バムサジャーナル (2185-9361)31 巻 2 号 Page51- 56(2019. 04)	「国民医療費」や「患者調 査」において、方法論におけ る技術的な問題や関連制度の 改定によって生じた影響を踏 まえた統計情報の解釈が必要 であり、感染症サーベイラン スの妥当性評価について、診 療報酬明細書の活用事例を示 した。第 11 回改訂版(ICD11) が及ぼす様々な疾病統計の妥 当性や連続性への影響につい て配慮が必要である。
3	2019048456	患者調査に おける総患 者数の推計 の妥当性と 応用に関す る研究	橋本 修二(藤 田保健衛生大 学 医学部衛 生学講座), 川戸 美由紀, 山田 宏哉, 齊藤 千紘, 三重野 牧子, 久保 慎一郎,	厚生 of 指標(0452- 6104)65 巻 12 号 Page1-6(2018. 10)	患者調査の総患者数の推計方 法について具体的な変更案(平 均診療間隔の算定対象を現行 の 30 日以下から 13 週以下へ 拡大)が示されている。この方 法による総患者数について、 患者調査以外の国民生活基礎 調査の通院患者数を基に妥当 性を検討した。結論として、

			野田 龍也, 今村 知明, 谷原 真一, 村上 義孝		慢性閉塞性肺疾患と高脂血症 では国民生活基礎調査の通院 患者数に、乳がんでは5年有 病数に課題があると考えられ た。
4	2018045220	患者調査に おける平均 診療間隔の 分布と再来 外来患者数 推計値の変 化	久保 慎一郎 (奈良県立医 科大学 公衆 衛生学講座), 野田 龍也, 川戸 美由紀, 山田 宏哉, 三重野 牧子, 谷原 真一, 村上 義孝, 橋本 修二, 今村 知明	日本公衆衛生雑誌 (0546-1766)64 卷 10 号 Page619- 629(2017. 10)	患者調査は平均診療間隔は前 回診療日より 30 日以内に受診 した患者のみが推計に利用さ れており、31 日以上の患者は 除外されている。本研究で は、診療間隔 31 日以上の患者 を組み入れることで、どう変 化するかについて全傷病およ び傷病別で比較した。また、 前回診療間隔の変化と推計方 法によって各疾患の再来外来 患者数がどの程度変化するか について検証した。1996 年か ら 2014 年までの患者調査の調 査票情報(病院票・一般診療所 票)に基づき再来外来患者数 を、集計した。前回診療から 30 日以内(現行の推計方法)に 受診した患者の割合(全傷病) は、1996 年では 91.2%であっ たが、2014 年の調査では 74.4%まで低下。前回診療間 隔の算入上限を 30 日から 90 日 に変えて平均診療間隔を推計 すると、再来外来患者数の推 計値は 2014 年の全傷病におい て 1.69 倍。再来外来患者数 は、前回診療間隔 1 日目(翌 日)に最初のピークがあり、そ の後は、7 の倍数(週単位)でピ ークが生じている。

5	2006100091	【日本の精神保健と福祉の課題と展望】精神病床の機能にもとづく基準病床数の算定式のあり方について	竹島 正(国立精神・神経センター精神保健研究所 精神保健計画部)	保健医療科学(1347-6459)53 巻 1 号 Page45-53(2004. 03)	一般病床・療養病床と精神病床における現在の基準病床数算定式の比較, 全国および都道府県における患者動態の分析等を基に, 精神病床における基準病床数の算定式の問題点と見直しの方向について検討した.
6	2006072139	患者調査・マスタープランの概要と鹿沼病院における長期入院患者の転帰 72,000 人の退院は可能なのか?	駒橋 徹(鹿沼病院)	栃木精神医学(0287-2242)25 巻 Page24-38(2005. 12)	精神科病院の長期入院患者の退院を促進するために, 社会的入院である 72,000 人を退院させることが可能か検討した. その結果, 患者長期入院患者の退院には, 受け入れ先の有無や精神症状と能力障害の程度のみならず, 様々な条件が整う必要があると考えられ, 72,000 人の退院が可能かどうかの判断はつかなかった.
7	2002184829	迷える悩めるこのデータ 「排泄要介助」なのに「介助実施なし」?	星野 桂子(国立医療病院管理研究所)	看護管理(0917-1355)12 巻 3 号 Page199(2002. 03)	1993 年の患者調査で排泄の「自立・要介護」は 38.8%であった。同時に排泄介助実施状況を調査したところ, 排泄要介助者の 27.3%は排泄介助を受けていなかった。排泄介助が必要とされる患者に一日中介助を実施しないとどのような状態かを検討した.
8	2002134247	患者調査に基づく移動距離算出の方法論の検討	宇多 真一(広島大学 医 公衆衛生), 中川 真紀, 藤本 眞一, 烏帽子田 彰	厚生指標(0452-6104)49 巻 1 号 Page30-36(2002. 01)	患者が医療機関受診の為に市町村間を移動する範囲について, 平成 7 年の広島県患者調査のデータから, 三次市, 三原市, のデータを用いて 3 種類の方法により算出した。移動距離としては, 大きな数字を示す施設もあったが, 受診患者数が少

				なく,全体の平均移動距離にはあまり大きな影響を及ぼさなかった.三つの方法による市内間の移動距離の違いを,市外患者も含めた集計,及び,二次医療圏の集計に適応した結果,市単位で見た場合には,計算方法によって1km以上の差があったが,二次医療圏単位で見ると,1km以内の小さな差となった
--	--	--	--	--